

Inohana Campus
亥鼻キャンパス

千葉大学キャンパスマスタープラン 2017 資料編②

「現状と課題」

Inohana Campus 亥鼻キャンパス

千葉大学キャンパスマスタープラン 2017
資料編② 亥鼻キャンパス「現状と課題」

目次

キャンパス概要

亥鼻キャンパス	・・・・・・・・	79
1 土地利用と建物配置		
1-1 周辺地域・土地利用	・・・・・・・・	80
1-2 機能別ゾーン	・・・・・・・・	81
1-3 建物デザイン・高さ	・・・・・・・・	82
1-4 建物老朽	・・・・・・・・	83
1-5 講義室	・・・・・・・・	84
2 インフラ計画		
2-1 交通動線	・・・・・・・・	85
2-2 駐輪場	・・・・・・・・	86
2-3 駐車場	・・・・・・・・	87
2-4 基幹設備	・・・・・・・・	88
2-5 エネルギー消費量・CO2 排出量・創エネ	・・・・・・・・	89
3 パブリックスペース		
3-1 学生スペース・交流スペース	・・・・・・・・	90
3-2 広場・オープンスペース	・・・・・・・・	91
3-3 樹木・緑地	・・・・・・・・	92
3-4 シンボル・歴史資源	・・・・・・・・	93
3-5 サイン・情報掲示	・・・・・・・・	94
4 安全・安心		
4-1 耐震改修	・・・・・・・・	95
4-2 犯罪・事故	・・・・・・・・	96
4-3 外灯	・・・・・・・・	97
4-4 バリアフリー	・・・・・・・・	98
4-5 避難場所	・・・・・・・・	99
4-6 喫煙場所	・・・・・・・・	100
4-7 廃棄物	・・・・・・・・	101
4-8 都市型豪雨	・・・・・・・・	102
5 その他		
5-1 全学共同利用スペース	・・・・・・・・	103
5-2 宿舎	・・・・・・・・	104

亥鼻キャンパス概要

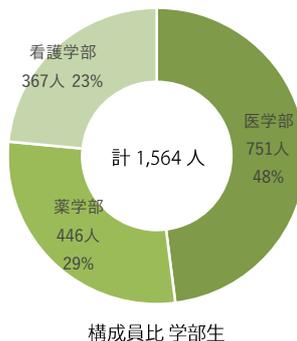
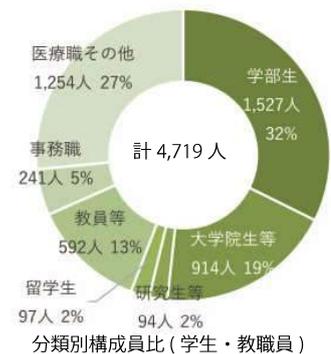
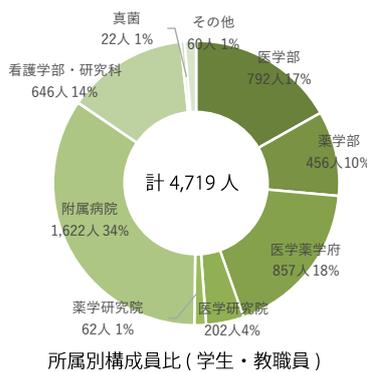
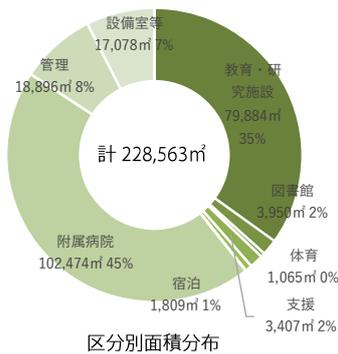


所在地 千葉市中央区亥鼻 1-8-1
設置年度 昭和 24 年
敷地面積 267,532㎡
建築面積 53,507㎡
延床面積 228,563㎡
棟数 80 棟

学部 医学部・看護学部・薬学部

大学院 医学研究院・医学薬学府・看護学研究科・薬学研究院

センター等 附属病院・附属看護実践研究指導センター・附属専門職連携教育研究センター・附属薬用資源教育研究センター・附属クリニカル・スキルズ・センター・附属法医学教育研究センター・附属超高齢社会研究センター・附属国際粘膜免疫アレルギー治療学研究センター・附属動物実験施設・真菌医学研究センター・社会精神保健教育研究センター・予防医学センター・未来医療教育研究センター・再生治療学研究センター・子どものこころの発達教育研究センター・バイオメディカル研究センター・附属図書館亥鼻分館



施設面積：施設実態報告面積等集計表 (H28.5.1) 施設環境部
 構成員：大学概要データ (H28.5) 留学生データ (H28.11)
 ヒアリング (附属学校関係)

1-1 周辺地域・土地利用



キャンパス周辺マップ

■ CMP2012 からの変化

- ・地区計画（素案）策定

■ 現状・課題

- ・都市計画道路（3.4.80 本町星久喜町線）の道路拡幅事業について、千葉市と協議を行っている。
- ・市道（本町 22 号線）の歩道・自転車道が未整備
- ・キャンパス東端部の地下にトンネルがあり、建物建設が難しい。
- ・キャンパス内に大きな高低差があり、ゾーン形成を阻害している。
- ・北側住宅地への配慮としてキャンパス北側の急傾斜地の管理
- ・丹後堰への雨水流出に関わる千葉市、周辺地域への対応

■ 検討の方向

- ・都市計画道路（3.4.80 本町星久喜町線）の拡幅に向けた千葉市との協議
- ・医学系総合研究棟新築に合わせた新たな入口の整備



①道路拡張（本町星久喜町線）



②敷地内高低差



③北側急斜面



④歩道整備（本町 22 号線）

1-2 機能別ゾーン



ゾーンマップ

■ CMP2012 からの変化

- ・旧同窓会館の老朽化に伴い、2014年にあひな同窓会館が新築された（共同利用ゾーン）

■ 現状・課題

亥鼻キャンパスは、教育研究、産官学連携、附属病院、共同利用、住居、運動場、緑地ゾーンが混在している。

- ・教育研究ゾーンと附属病院ゾーンの連携を考慮し、現在の野球場に医学部本館の改築計画を進めている。

■ 検討の方向

- ・教育、研究の発展を支えるゾーニング計画
- ・教育研究ゾーンと医学部附属病院ゾーンの連携
- ・医学部正門前広場を交流ゾーンの核とし、共同利用、教育研究ゾーンが周辺を取りまくゾーニング計画

- ・共同利用ゾーンの連携
- ・各ゾーンの明確化



①あひな同窓会館

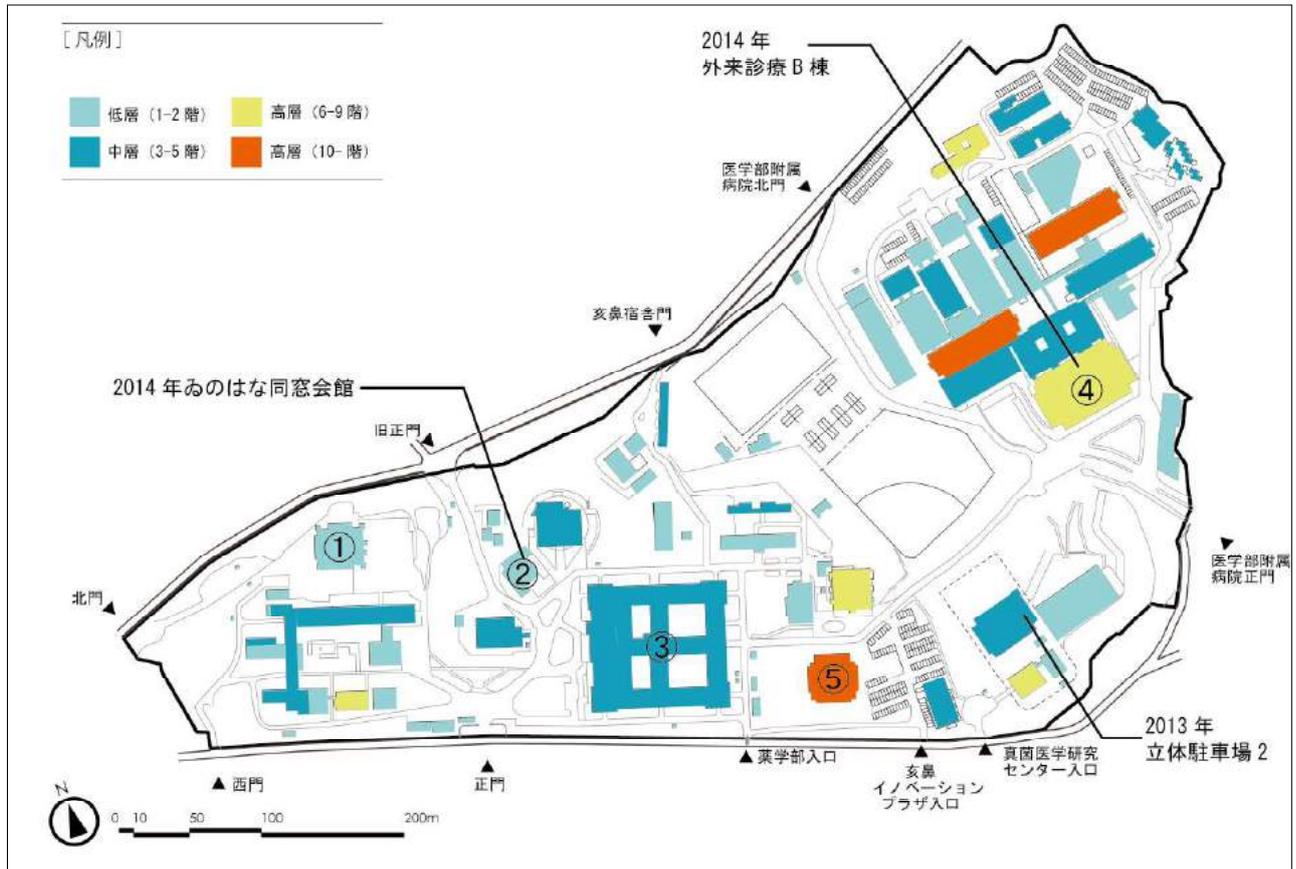


②運動場ゾーン→教育研究ゾーン検討

教育研究ゾーン	医学部
	薬学部
	看護学部
	看護学研究科
	医学薬学府
	医学研究院
	薬学研究院
	総合教育研究施設
	動物実験施設
	看護実践研究指導センター
社会精神保健教育研究センター	
真菌医学研究センター	
バイオメディカル研究センター	
予防医学センター	
未来医療教育研究センター	
再生治療学研究センター	
子どものこころの発達教育研究センター	
産学連携ゾーン	亥鼻イノベーションプラザ
附属病院ゾーン	医学部附属病院
共同利用ゾーン 地域交流ゾーン	福利施設 あひな記念講堂・あひな同窓会館 附属図書館亥鼻分館
住居ゾーン	職員宿舎、看護師宿舎 雄翔寮（学生寮）
運動場ゾーン 課外活動ゾーン	野球場・サッカーコート・テニスコート・体育館・弓道場・サークル会館
緑地ゾーン	七天玉塚、その他

(表) 機能別ゾーン一覧

1-3 建物デザイン・高さ



建物高さ分布図

施設環境部データ集より

■ CMP2012 からの変化

- ・2013(平成 25)年 立体駐車場 2 (5 階建)
- ・2014(平成 26)年 外来診療 B 棟 (6 階建)
- ・2014(平成 26)年 あのはな同窓会館 (2 階建) が完成した。

- ・キャンパス全体の建物配置計画と合わせて、壁面線、建物高さ、スカイライン、外装色、材料に関するガイドラインの検討
- ・医学部本館の今後の活用方針

■ 現状・課題

玄鼻キャンパスの建物の多くは 3～5 階の中層であるが、6～9 階の建物が 5 棟、10 階以上の建物が 3 棟ある。

- ・建物の色、デザインの調和がとれていない。
- ・医学部の「顔」である医学部本館が著しく老朽化している。
- ・医学系総合研究棟、新中央診療棟のファサードデザインのコンセプト

■ 検討の方向

- ・土地の有効活用と敷地の高低差に配慮したスカイラインを形成する建物高さの規定



①あのはな記念講堂 (低層)



③医学部本館 (中層)



②あのはな同窓会館 (低層)

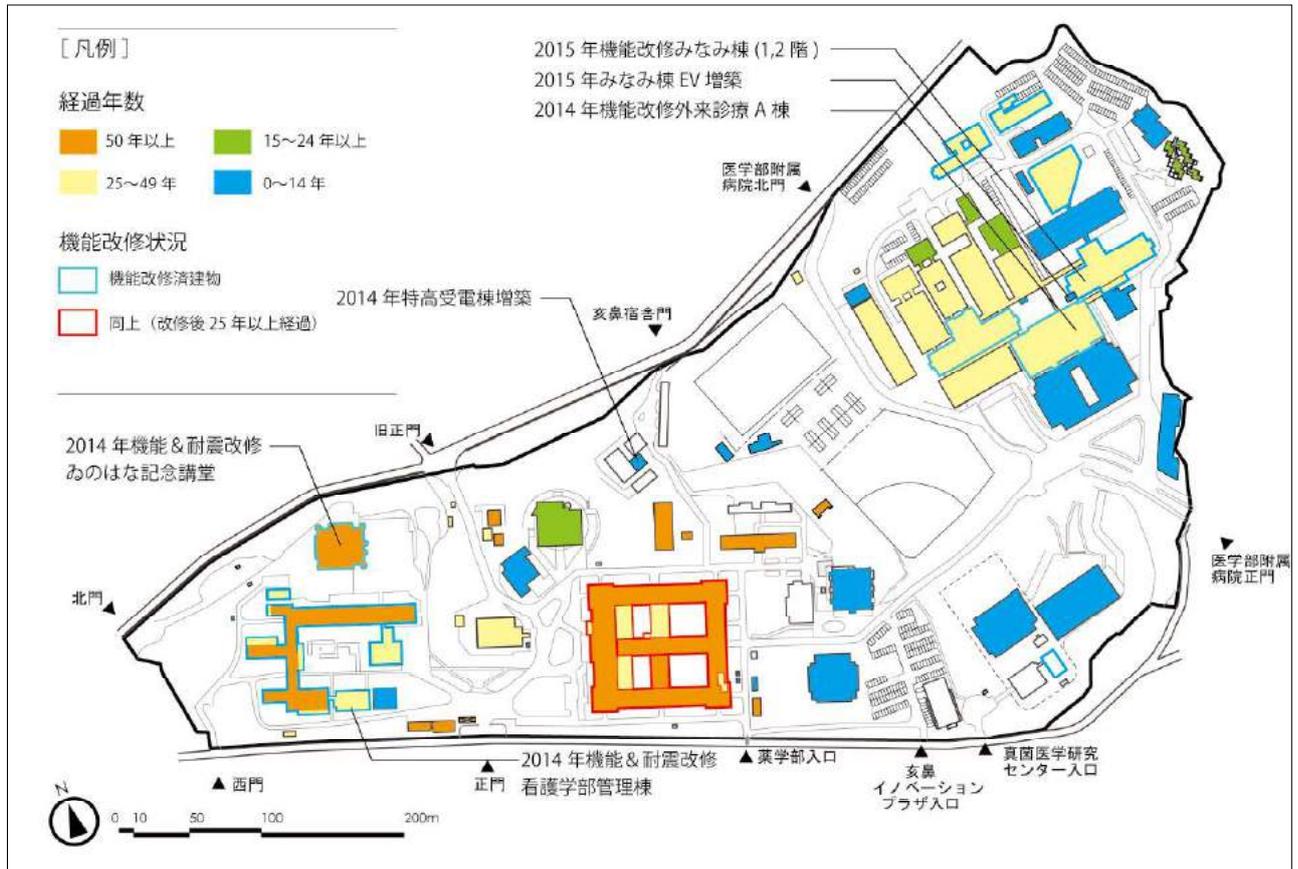


④外来診療 B 棟 (中層)



⑤医薬系総合研究棟 I (高層)

1-4 建物老朽



建物計年別・機能改修状況別配置図

施設環境部データ集より

■ CMP2012 からの変化

・2014年に機能&耐震改修された、のみのはな記念講堂が、長期にわたって適切な維持保全を実施したり、優れた改修を実施した既存の建築物のうち、特に優秀なものに与えられる BELCA 賞を受賞した。

・2014(平成26)年：
看護学部管理棟、のみのはな記念講堂、外来診療 A 棟 機能改修

特高受電棟増築

2015(平成27)年：

みなみ棟 1・2階 機能改修

みなみ棟 EV 増築

・要改修率

CMP2012 37.6% → CMP2016 14.5%

■ 現状・課題

・亥鼻キャンパスにある建物 228,483㎡のうち、全面的な機能改修後 25年以上経過し、改修検討が必要な面積 33,166㎡を医学部本館が占める。

■ 検討の方向

・将来的な改修保全と建替えの判定方法を検討し、劣化防止計画に反映

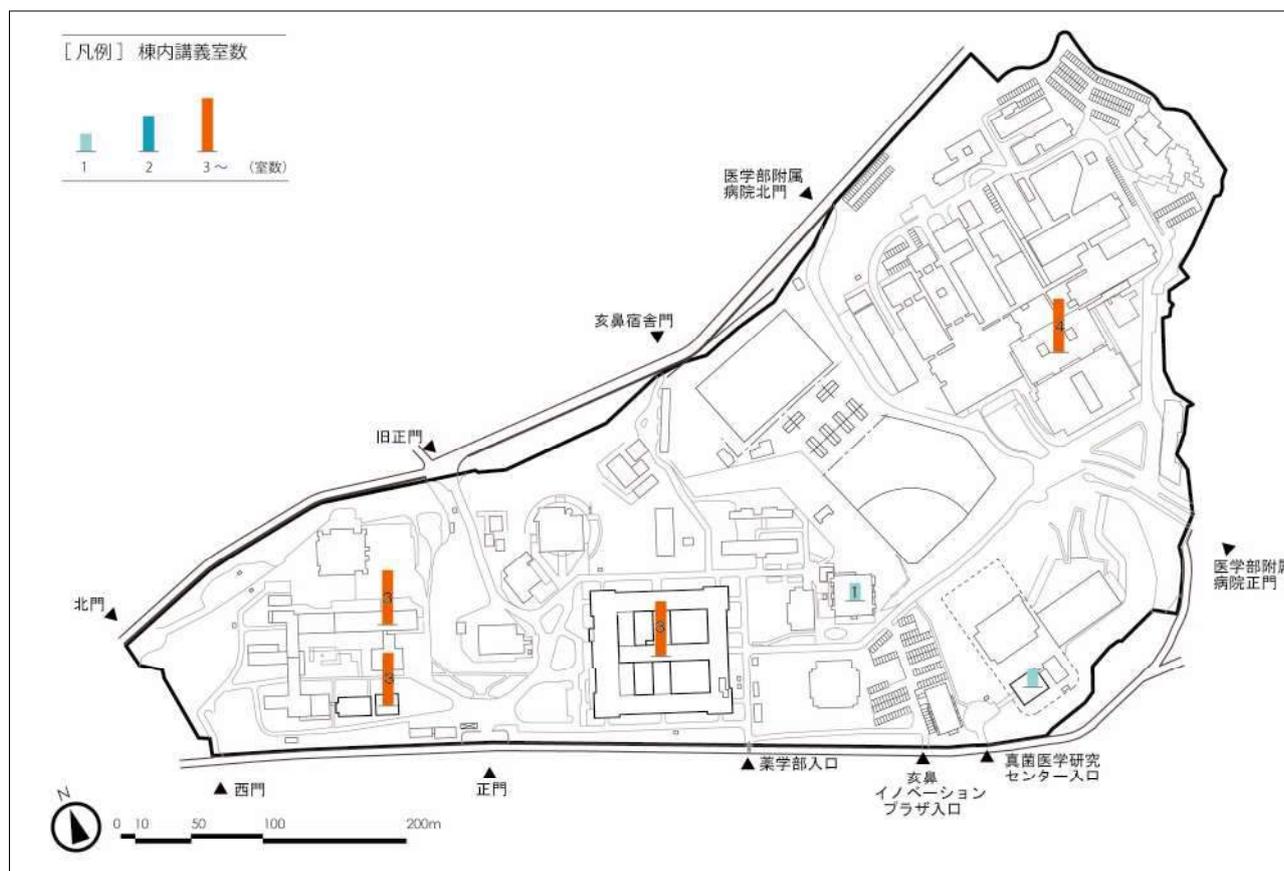
・医学部本館の今後の活用方針

・動物実験施設の今後のあり方



医学部本館

1-5 講義室



講義室分布図

施設環境部資料より

■ CMP2012 からの変化

■ 現状・課題

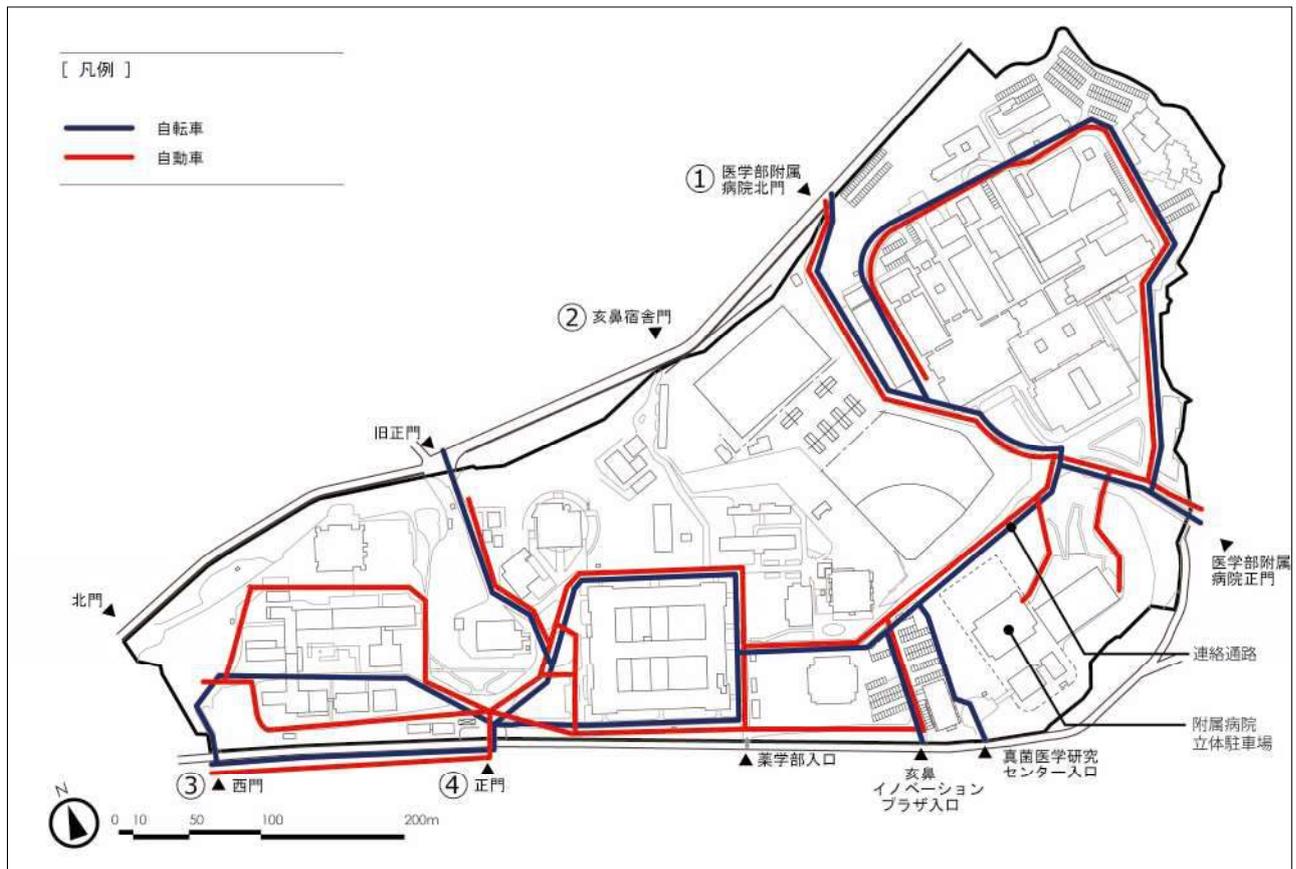
亥鼻キャンパスには、全体で 15 室の講義室がある。稼働率についてみると、60% 以上の稼働率をもつ面積割合は講義室全体の 2,568 m² のうち 1,142 m² で全体の 44.47% である。

- ・ 亥鼻 IPE 授業に対応した大講義室と少人数対応の小ゼミ室が不足している。
- ・ 医薬看共通講義コマ数の増加により大講義室 (300 ~ 400 人規模) が不足している。
- ※ IPE (Interprofessional Education) 専門職連携教育
- ・ 薬学部講義棟 (プレハブ) は、防音、狭隘などの点で問題がある。

■ 検討の方向

- ・ 講義室等の部局、学科を横断した有効な共同利用の推進
- ・ 3 学部が共同で使用できる大教室 (300 ~ 400 人規模) の確保
- ・ 記念講堂の活用
- ・ 少人数ゼミ室の設置
- ・ 建物配置計画とゾーニングに反映
- ・ 薬学部講義棟 (プレハブ) の講義室 3 室の環境改善

2-1 交通動線



交通動線図

■ CMP2012 からの変化

・2013（平成25）年に附属病院立体駐車場が完成した。

■ 現状・課題

亥鼻キャンパスには、キャンパス北側に4カ所、南側に6カ所、東側に2カ所の門がある。

・キャンパス内道路の歩車分離が図られていない。

・病院ゾーンと研究教育ゾーンをつなぐ連絡通路が1ルートのみで、管理動線と学生、来客動線が混合している。

・多数の路上駐車がある。

・市道拡幅にともなう敷地南側の再整備が計画中

■ 検討の方向

・歩車分離、交通ルートの見直し

・自動車乗り入れ禁止ゾーン

・駐車場規模と利用者数

・病院ゾーンと研究教育ゾーンをつなぐ複数ルート

・キャンパスの外周道路

・門の位置づけと役割に見合った環境整備



①医学部附属病院北門



②亥鼻宿舎入口



③西門



④正門

2-3 駐車場



駐車場分布図

施設環境部データ集より
平成 28 年 11 月

■ CMP2012 からの変化

- ・ ののほな同窓会館 (2014(平成 26)年完成)、外来診療 B 棟 (2014(平成 25)年完成) に伴い、既存駐車場の移設
- ・ 2013(平成 25)年に附属病院立体駐車場が完成した。
- ・ 市道拡幅に伴う既存駐車場の移設
- ・ 駐車場の場所についての不満度 40.7%(2012) → 44.9%(2016) でやや増加している。

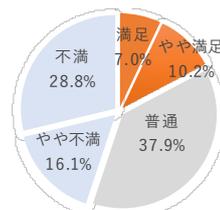
■ 現状・課題

亥鼻キャンパスの駐車場は、キャンパス全体に分散配置されている。アメニティアンケートでは約 45% が駐車場の場所に不満を感じており、約 56% が駐車場の数に不満を感じている。

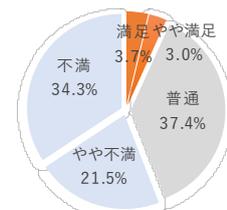
- ・ 病院地区駐車場の配置について、患者歩行動線と錯綜し、歩行者の安全が損なわれている。病院地区の職員駐車場は路上駐車が常態化し、通行上危険である。

■ 検討の方向

- ・ ゾーニング計画に合わせた駐車場設置



(図 1) 駐車場の場所について



(図 2) 駐車場の数について



① ののほな記念講堂前駐車場



② 附属病院周辺の路上駐車

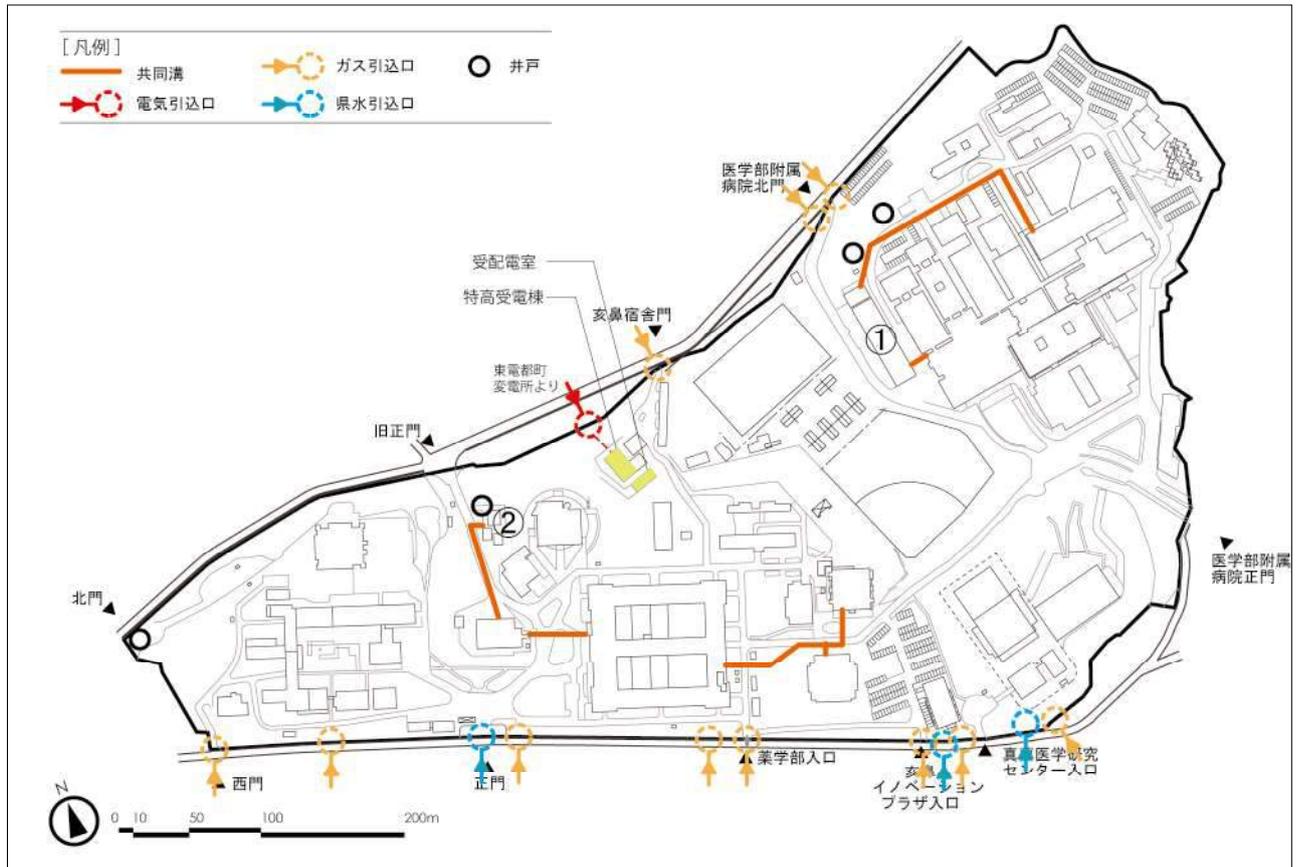


③ 立体駐車場



④ 医薬系総合研究棟脇駐車場

2-4 基幹設備



基幹設備図

施設環境部データ集より
平成 28 年 11 月

■ CMP2012 からの変化

■ 現状・課題

亥鼻キャンパスの共同溝の設置は、一部に留まっており、その他の電気、ガス、上下水道のインフラ設備は大地震の発生時には被害を受ける可能性がある。

■ 検討の方向

- ・維持管理コストの低減を図る共同溝の段階的整備手法
- ・修繕や設置期間と場所など管理の記録のデータ化
- ・災害に強い基幹設備



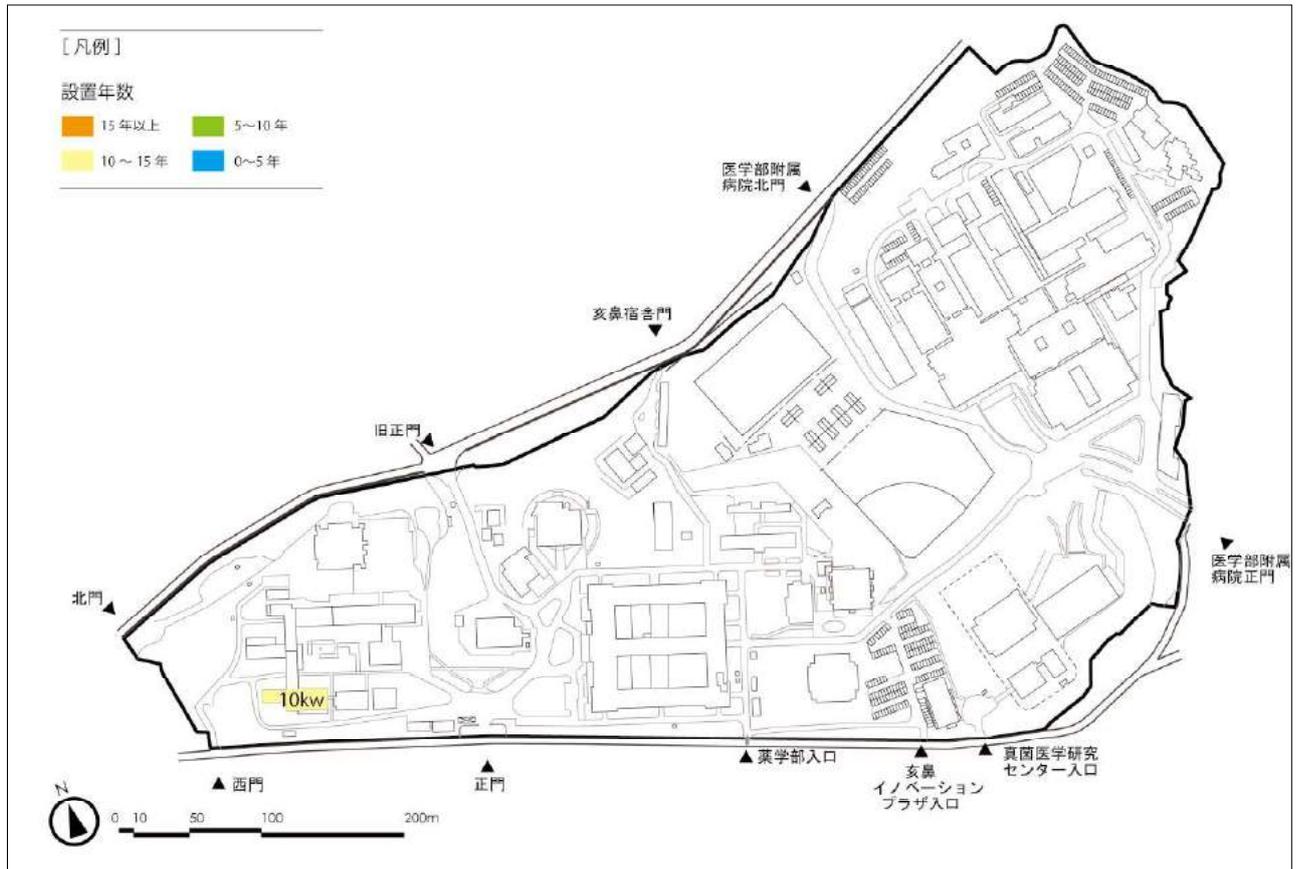
①医学部附属病院エネルギーセンター



②給水所

	現状	検討の方向
共同溝	<ul style="list-style-type: none"> ・病院地区は全て共同溝内 ・教育研究部門は看護学部が埋設管 	<ul style="list-style-type: none"> ・病院地区は再開発に基づき増設変更 ・教育研究部門は現状共同溝を利用することを基本とし、再開発計画に応じて増設、変更を行うものとする。
湧水	<ul style="list-style-type: none"> ・メインルートは全て共同溝内であるが、看護学部系統は埋設配管 	再開発計画に応じて計画
井水	<ul style="list-style-type: none"> ・メインルートは全て共同溝内 ・看護学部系統は埋設配管 	再開発計画に応じて計画
ガス	埋設配管	現状通りとする。
電力	<ul style="list-style-type: none"> ・病院地区は全て共同溝内 ・教育研究部門は看護学部が埋設配管 	再開発計画に応じて計画。

2-5 エネルギー消費量・CO₂ 排出量・創エネ



太陽光発電設備分布図

施設環境部資料より

■ CMP2012 からの変化

・年間エネルギー消費 (GJ)(図 1)

亥鼻 142,959(2010) → 147,290(2015)

附属病院 368,549(2010) → 361,724(2015)

・年間エネルギー消費量原単位 (MJ/m²)(図 2)

亥鼻 1,682(2010) → 1,565(2015)

附属病院 3,749(2010) → 2,906(2015)

・年間 CO₂ 排出量 (t)(図 3)

亥鼻 5,966(2010) → 7,576(2015)

附属病院 15,999(2010) → 13,022(2015)

・年間 CO₂ 排出量原単位 (t-CO₂/m²) (図 4)

亥鼻 70.2(2010) → 80.49(2015)

附属病院 162.7(2010) → 148.88(2015)

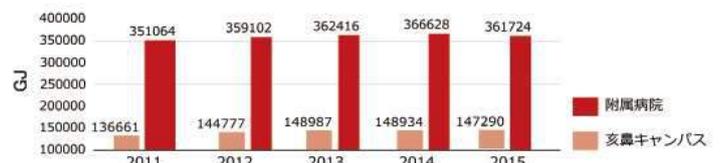
■ 現状・課題

・附属病院でのエネルギーの消費量が多い。

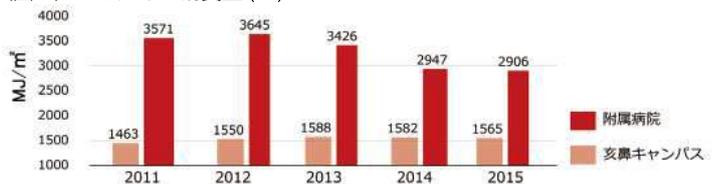
■ 検討の方向

・太陽光発電設備など自然エネルギー活用の具体的方策

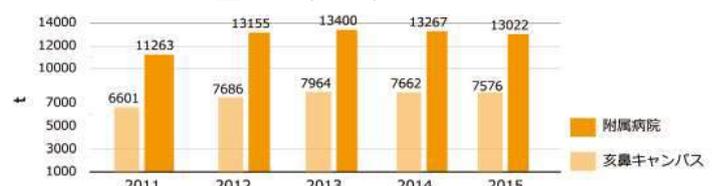
・CASBEE 導入



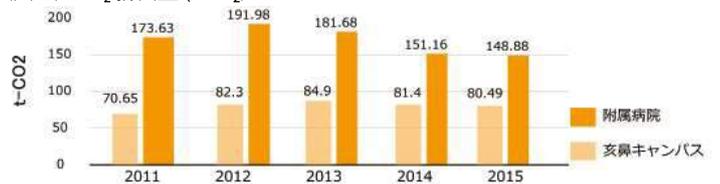
(図 1) エネルギー消費量 (GJ)



(図 2) エネルギー消費量原単位 (MJ/m²)



(図 3) CO₂ 排出量 (t-CO₂)



(図 4) CO₂ 排出量原単位 (t-CO₂/m²)

3-1 学生スペース・交流スペース



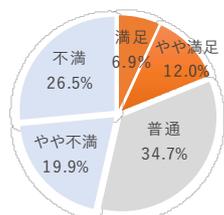
学生・交流スペース分布図

■ CMP2012 からの変化

屋内休憩・交流スペースの不満足度
55.4%(2012) → 46.4%(2016)

■ 現状・課題

- ・リフレッシュルームが24カ所、950㎡。フリースペースが2カ所、231㎡あり、各建物に分散配置されている。福祉施設は看護学部集中している。アンケートでは約46%が屋内休憩・交流スペースに不満を感じている。(図1)
- ・IPE小グループ学習、チュートリアル教育の準備のための自主学習や国家試験のためのグループ学習室等が不足
- ・学生(1~3年)の控室・談話室が少ない。

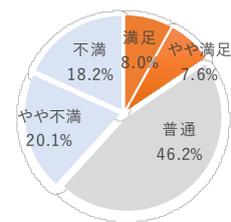


(図1) 屋内休憩・交流スペース満足度

■ 検討の方向

- ・教育・研究施設だけではない学びの場としての学生・教職員交流スペース(図2)や、自発的学習スペースの提供
- ・薬学部移転に伴う厚生施設の分散配置、医学部本館内のリフレッシュスペース設置
- ・学外者、研究者交流スペース設置

キャンパス整備企画室調査より
平成28年11月



(図2) 屋内の自習スペース満足度



①福祉施設



②福祉施設(食堂)

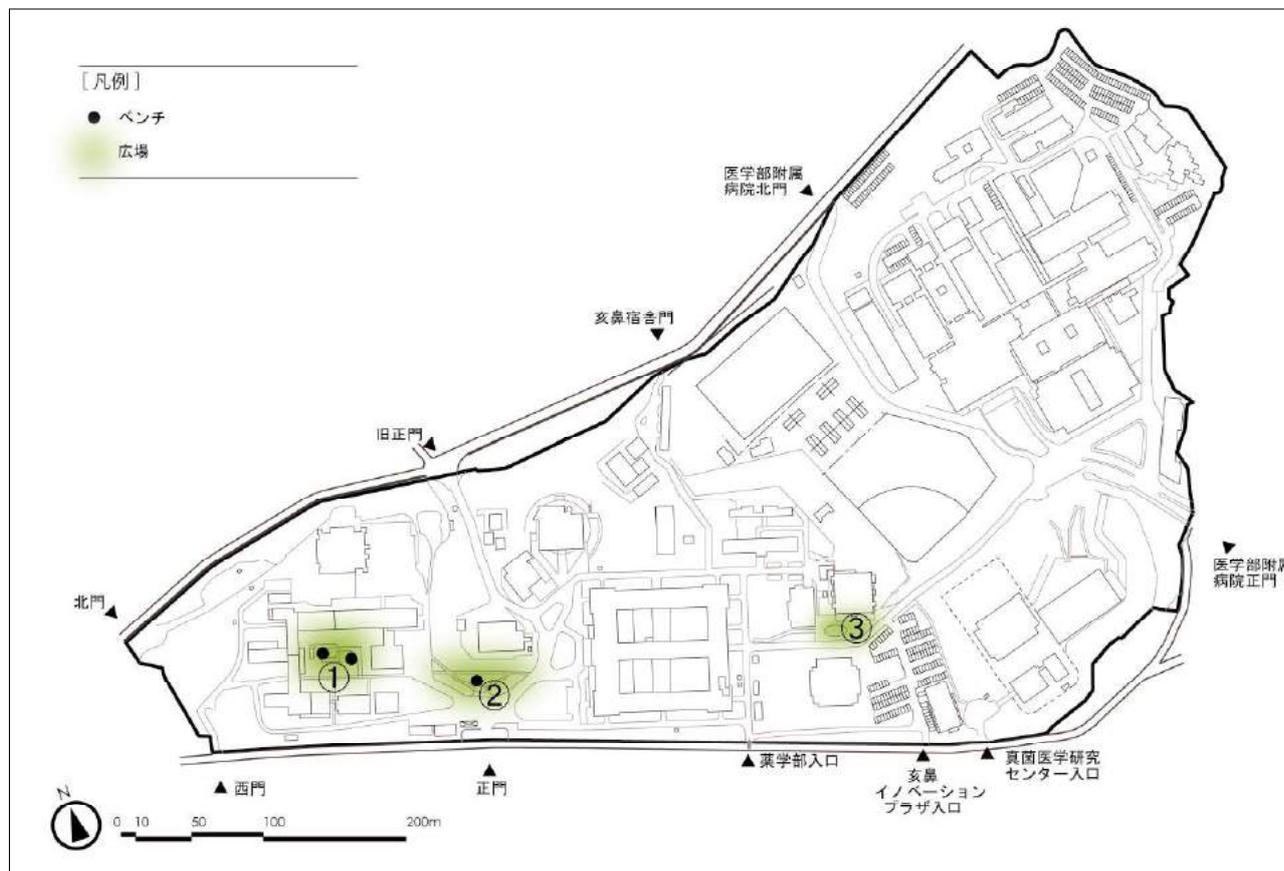


③サークル会館



④リフレッシュコーナー(看護学部棟)

3-2 広場・オープンスペース



広場・オープンスペース分布図

キャンパス整備企画室調査より
平成 28 年 11 月

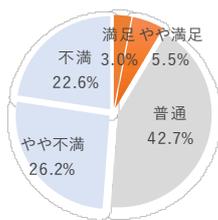
■ CMP2012 からの変化

屋外休憩・交流スペースの不満足度
59.2%(2012) → 48.8%(2016)

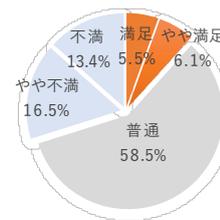
■ 現状・課題

・ベンチのある広場が2か所ある。アンケートでは約 49% が屋外休憩・交流スペースに不満を感じている。(図 1)

学生・教職員、学外者の交流スペースが不足している。(図 2)



(図 1) 屋外休憩・交流スペース満足度



(図 2) 屋外の自習スペース満足度



①看護学部周辺



①看護学部周辺



②医学部正門周辺

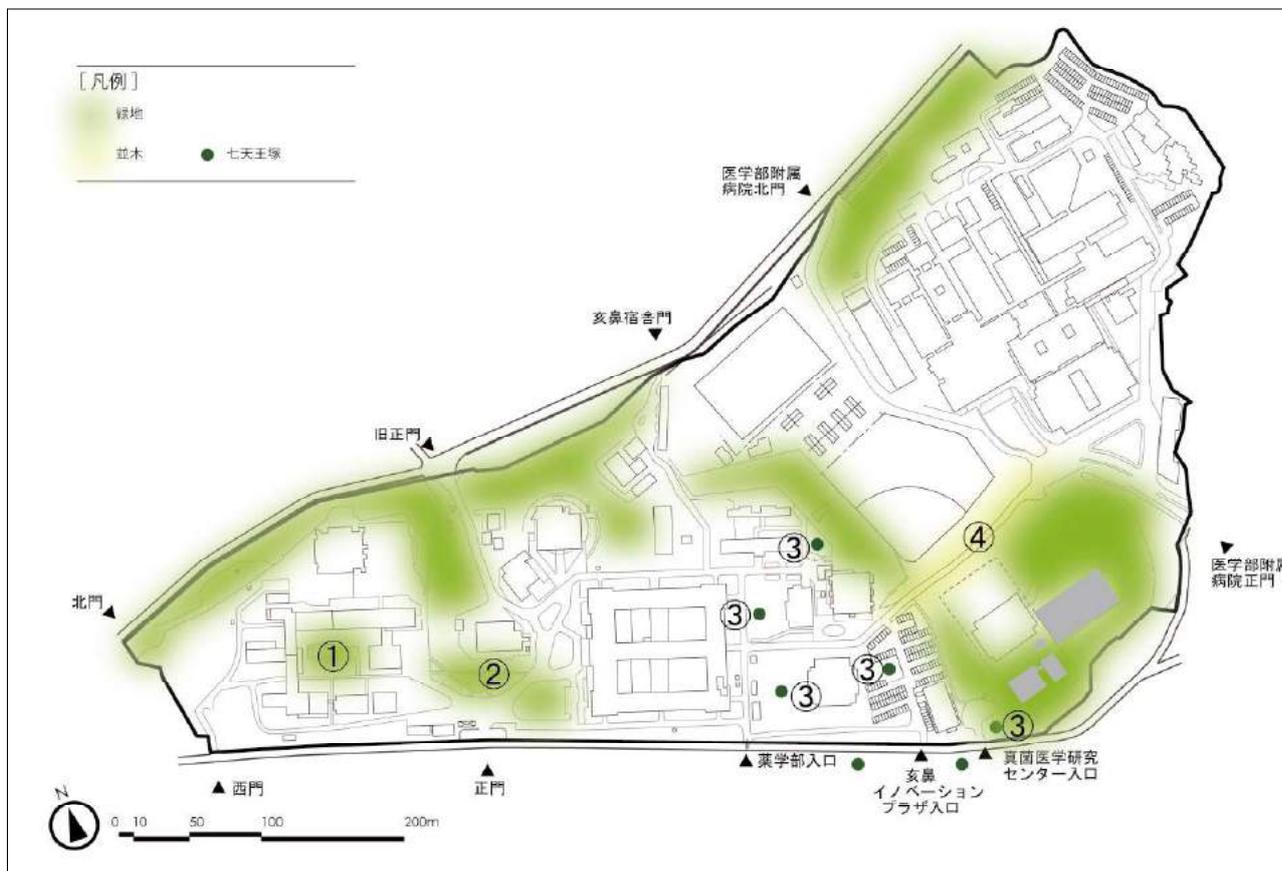


③医薬系総合研究棟Ⅱ前

■ 検討の方向

- ・ バランスの良い配置
- ・ 交流ゾーンであるアプローチ（門）の直近に広場を配置

3-3 樹木・緑地



樹木・緑地分布図

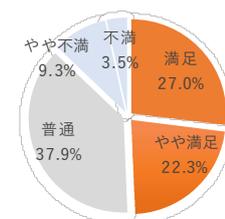
キャンパス整備企画室調査より
平成 28 年 11 月

■ CMP2012 からの変化

- ・樹木の量についての満足度
61%(2012) → 49.3%(2016)

■ 検討の方向

- ・緑化環境（屋外環境・ランドスケープ整備）計画
- ・維持管理計画（指針）



(図 1) 樹木の量について

■ 現状・課題

- ・亥鼻キャンパスの樹木、緑地は緑豊かで、看護学部中庭、七天王塚、附属病院と教育研究ゾーンをつなぐ桜並木の土手、凡秋谷などランドスケープ資源がある。アメニティアンケートでも樹木の量に対する満足度が高い。(図 1)
- ・現在緑地になっている箇所が十分に管理されていない。
- ・十分な管理計画がとられていない。
- ・記念植樹など場当たりに植樹されている。



①看護学部中庭



②正門・動物実験施設周辺

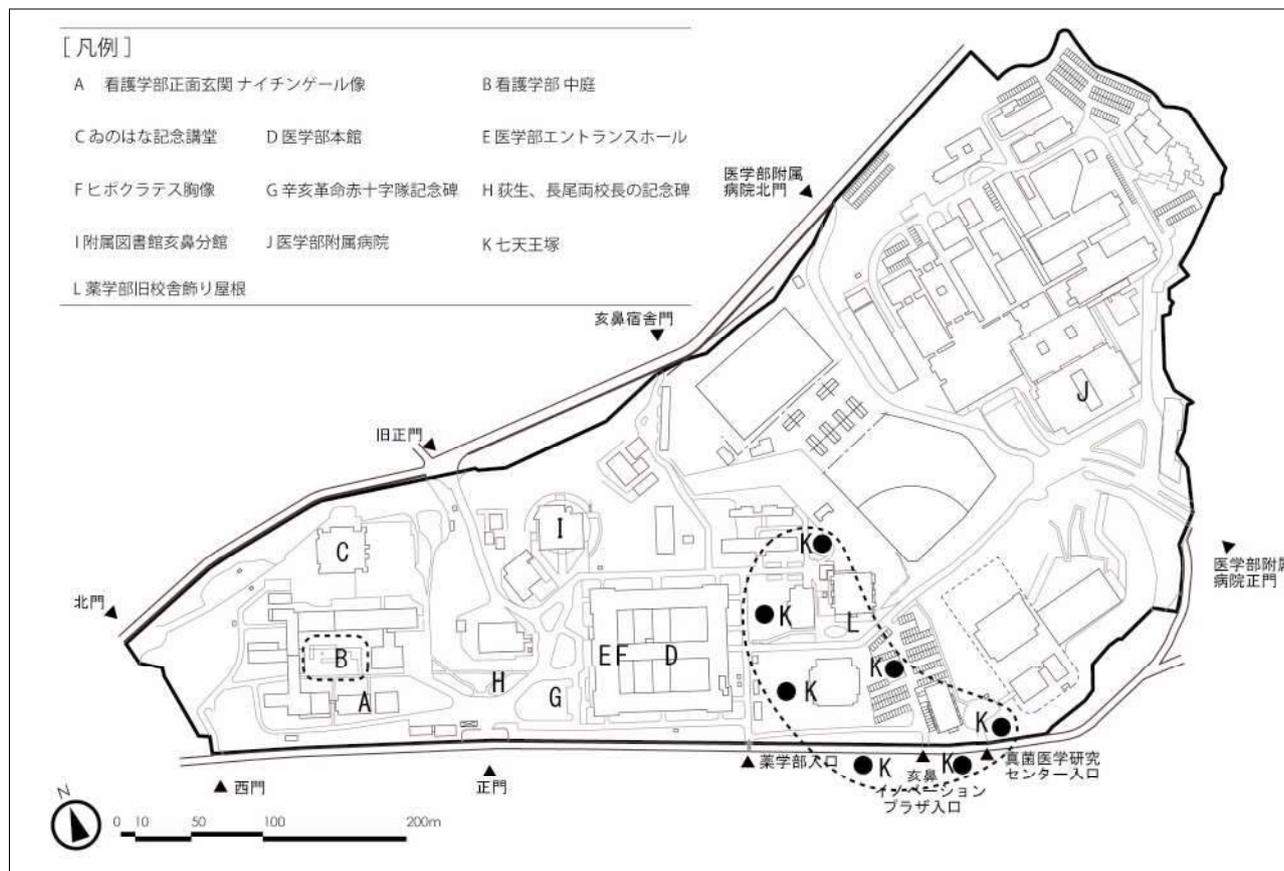


③七天王塚



④土手の並木

3-4 シンボル・歴史資源



シンボル・歴史資源分布図

千葉大ホームページ他より
平成 28 年 11 月

■ CMP2012 からの変化

- ・2014年にみのはな記念講堂の改修が完了し、みのはな記念講堂と改称した。



C みのはな記念講堂



D 医学部本館

■ 現状・課題

- ・亥鼻キャンパスには、医学部本館、みのはな記念講堂、記念碑、記念像などの歴史資源がある。



F 医学部本館内部



H 記念碑

■ 検討の方向

- ・医学部本館などの歴史資源を活かした整備

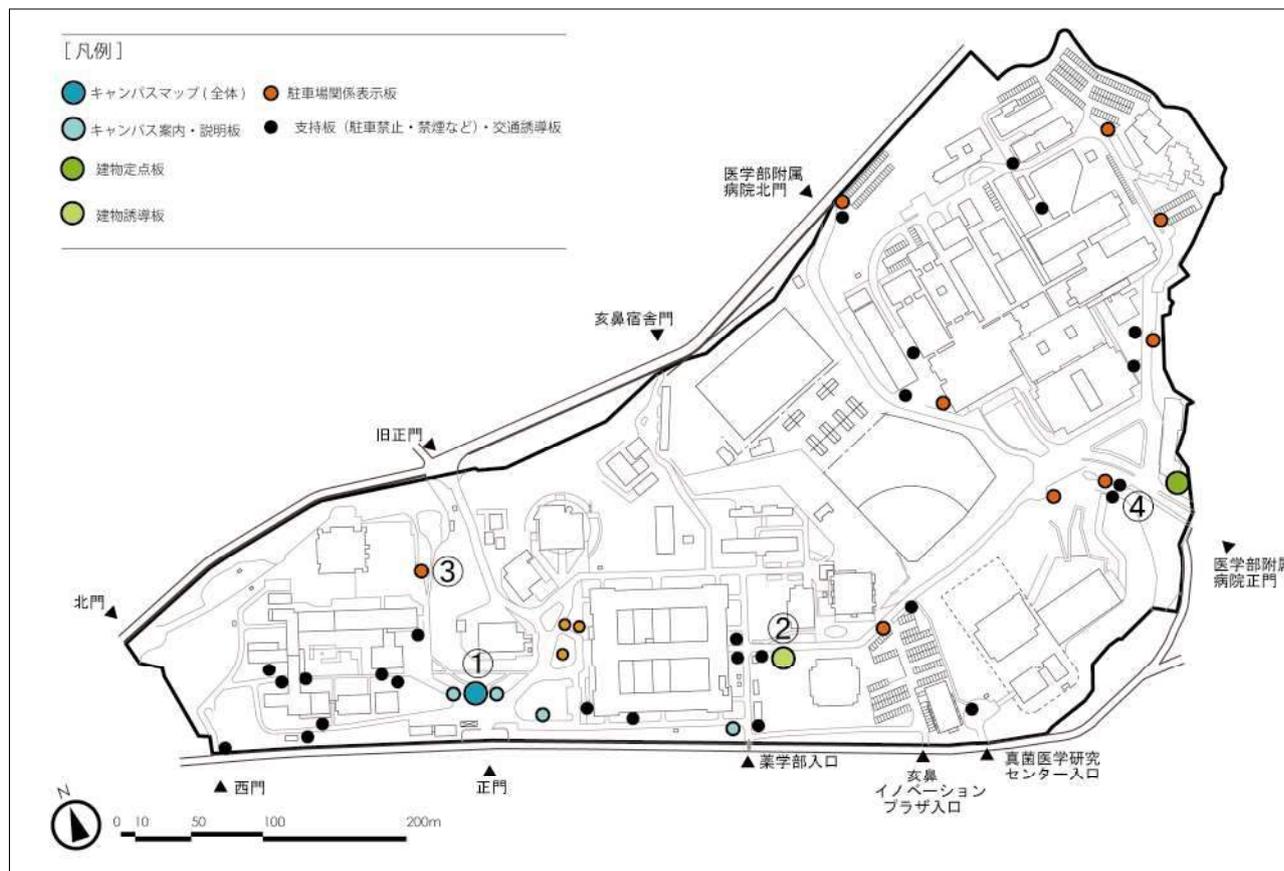


K 七天王塚



L 薬学部旧校舎飾り屋根

3-5 サイン・情報掲示

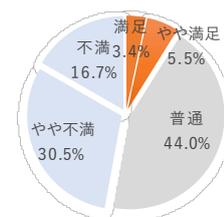


サインマップ

施設環境部調査より
平成 28 年 11 月

■ CMP2012 からの変化

- ・道案内板の分かりやすさの不満度
62.9%(2012) → 47.2%(2016)



(図 1) 道案内板の分かりやすさについて

■ 現状・課題

- ・亥鼻キャンパスのサイン（表示・誘導・案内）は、デザインがばらばらで統一感がない。
- ・アメニティアンケートでは約 47% が誘導サインが分りにくいと回答している。(図 1)

■ 検討の方向

- ・サインの整備計画
- ・国際化に対応する表記方法
- ・情報発信のための掲示手法のあり方
- ・インフォメーションセンター設置
- ・病院内のサイン計画
- ・動線計画見直しの交通サインへの反映



①キャンパスマップ(全体)



②建物誘導板



③駐車場関係表示板



④支持板・交通誘導板

4-1 耐震改修



構造耐震指標構造耐震指標 (Is 値) 別・耐震改修状況別配置図

平成 28 年度施設環境部データより

■ CMP2012 からの変化

- ・あのはな同窓会館・看護学部管理棟・エネルギーセンター・中央診療 C 棟 (2014 年改修)
- ・真菌医学研究センター A 棟 (2015 年改修)

■ 検討の方向

- ・医学部本館の今後の活用方針

■ 現状・課題

1981 年以前の旧耐震基準による建物面積は 118,822㎡あり、亥鼻キャンパスの保有面積 228,563㎡の 52.0%である。そのうちの大半は耐震改修が既に完了しており、要耐震改修面積は、35,033㎡の医学部本館のみである。(宿舎 3,150㎡は H28 年度で利用停止するため要耐震改修面積に含まない)



(図) 建物の耐震改修面積比率



医学部本館

4-2 犯罪・事故



犯罪・事故マップ

犯罪・事故等の実施把握調査より

■ CMP2012 からの変化

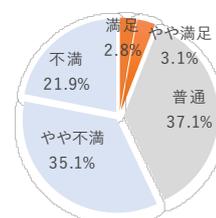
・防犯上危ない場所の対策についての不満
度 59.8%(2012) → 57%(2016) (図)

■ 現状・課題

亥鼻キャンパスでは、7件の犯罪、1件の交通事故がある。

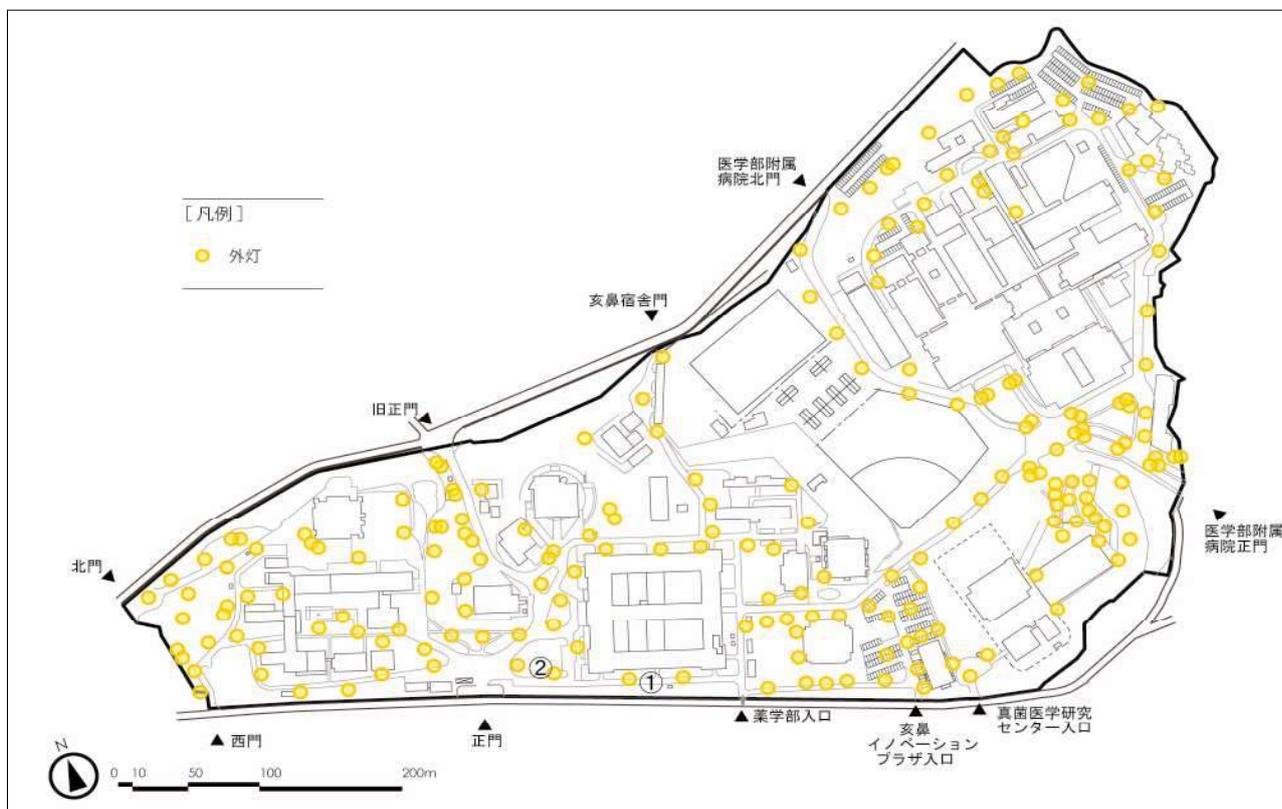
■ 検討の方向

・建物セキュリティ確保のための標準仕様



(図) 防犯上危ない場所の対策について

4-3 外灯



外灯分布図

施設環境部資料より 平成 29 年 5 月

■ CMP2012 からの変化

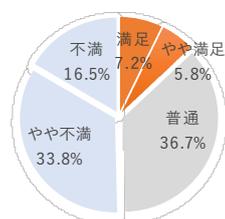
- ・外灯に関する満足度
9.2%(2012) → 13.0%(2016)

■ 現状・課題

亥鼻キャンパスの主要な道路の外灯、照度は比較的十分であるが、一部に暗がりが生じている部分がある。外部空間の照度を調査し、外部照明計画によって安全性の確保を推進している。アメニティアンケートでは、約 50% が外灯の明るさに不満を感じている。

■ 検討の方向

- ・外灯の増設
- ・外灯の光を遮らない樹木の剪定検討



(図) 外灯の明るさについて

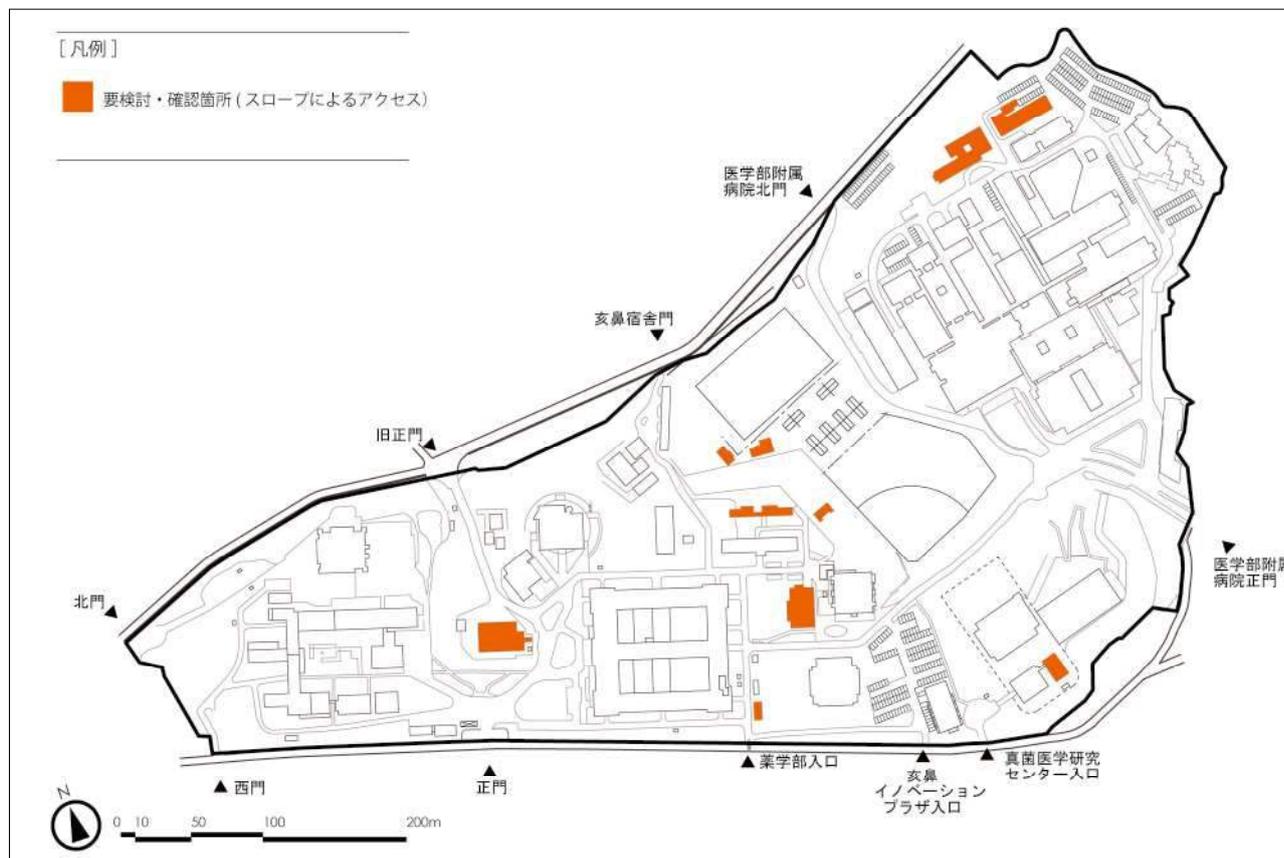


①医学部本館周辺



②医学部本館周辺

4-4 バリアフリー



バリアフリーマップ

施設環境部調査 平成 29 年 5 月

■ CMP2012 からの変化

- ・バリアフリーの不満足度
45%(2012) → 40%(2016) (図)

■ 検討の方向

- ・バリアを解消する整備手法の検討
- ・ユニバーサルデザインの検討

■ 現状・課題

玄鼻キャンパスでは、身障者エレベーター、身障者トイレ、スロープの整備を推進中である。

- ・バリアフリー整備を推進中であるが、十分ではない。



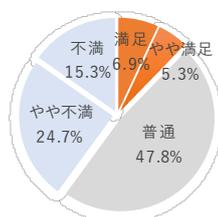
身障者用駐車スペース



スロープ

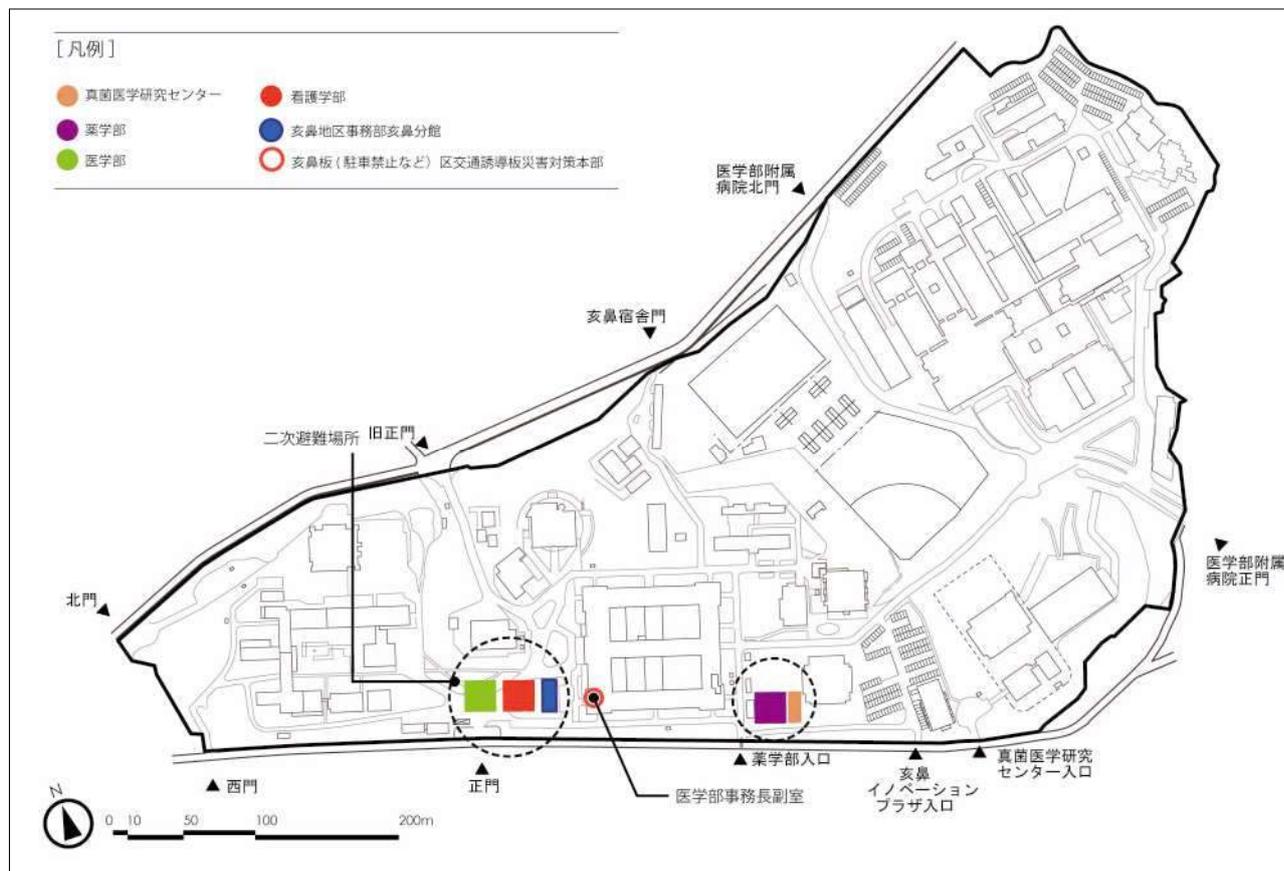


身障者用トイレ



(図) バリアフリーについて

4-5 避難場所



避難場所マップ

千葉大学防災のしおり

■CMP2012 からの変化

- ・災害対策本部の場所が、附属図書館から医学部本館内に移動した。

■検討の方向

- ・災害時の拠点（構成員用備蓄等を含む）
- ・避難場所の再検討



二次避難場所

■現状・課題

亥鼻キャンパスでは、千葉市による避難場所の指定はない。「千葉大学震災対策要綱」において、二次避難場所として野球場が指定されている。

- ・二次避難場所に至る道は狭く急傾斜があるため、円滑な避難が難しい。
- ・二次避難場所の標高の低い場所は津波が到達する可能性があり、今後検討が必要である。

4-6 喫煙場所



喫煙場所分布図

喫煙所マップより

■ CMP2012 からの変化

2012年の喫煙場所は5カ所。喫煙率は9% (177人/1968人※学生+職員)であったが、2016年の喫煙場所は4カ所、喫煙率は3.5%となった。

■ 現状・課題

亥鼻キャンパスは、2011年に指定喫煙所以外を敷地内禁煙とし、室内は全面禁煙。屋外の喫煙所は4箇所とした。

安全衛生管理機構のアンケートによると亥鼻キャンパス構成員の喫煙率は3.5% (65人/1854人※学生+職員)

内訳は、学生1.91%職員6.8%である。

■ 検討の方向

・全面禁煙を含めたキャンパス敷地内の喫煙のあり方



①医学部本館脇

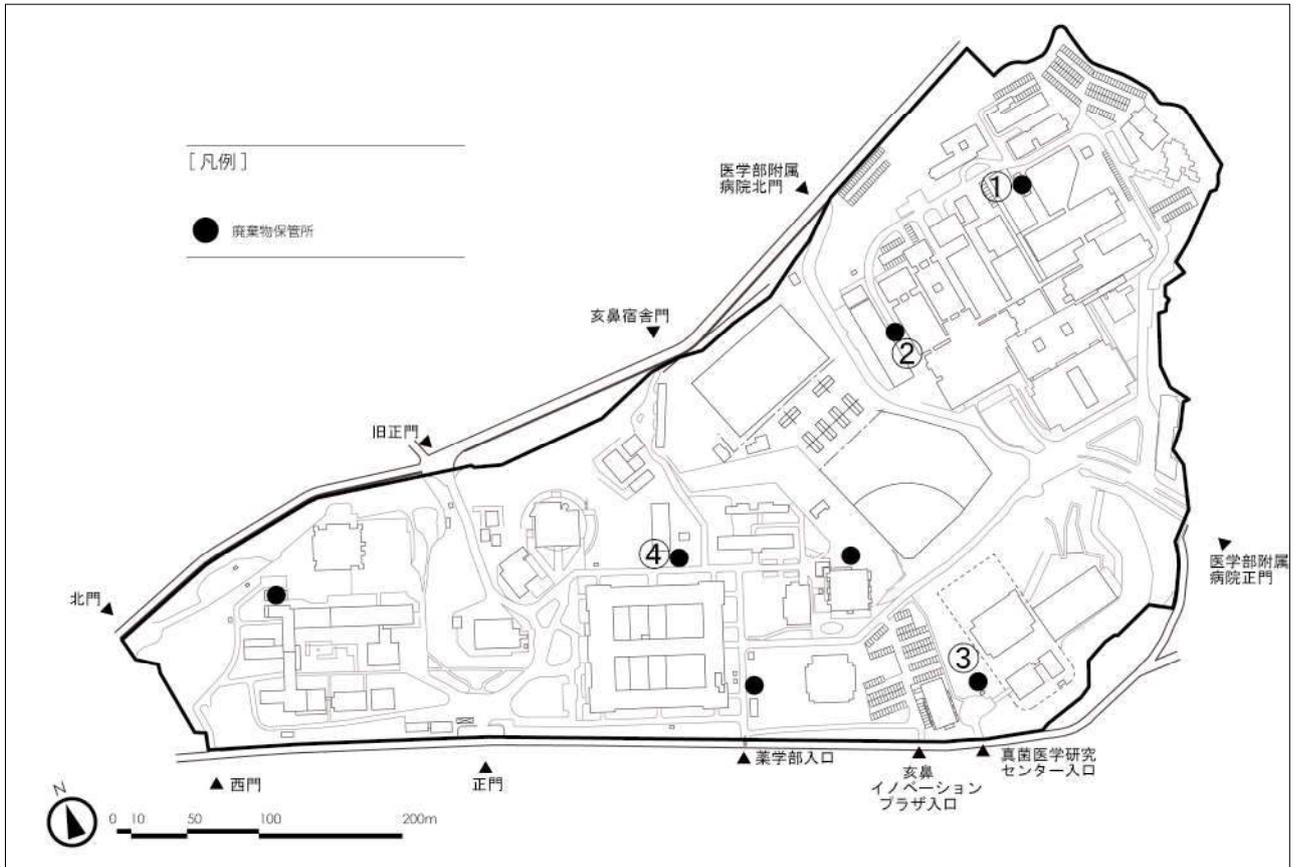


②看護学部中庭



③医薬系総合研究棟 | ・医学部本館間駐車場脇

4-7 廃棄物



廃棄物保管所マップ

施設環境部調査より

■ CMP2012 からの変化

- ・粗大ゴミ置き場についての不満度
23.1%(2012) → 17.3%(2016) (図2)
- ・ゴミ置き場の場所の数についての不満度
21.4% (2012) → 7.6%(2016) (図1)



①医学部附属病院



②エネルギーセンター前

■ 現状・課題

亥鼻キャンパスには、一般廃棄物、産業廃棄物のほか、医療系廃棄物の保管場所がある。



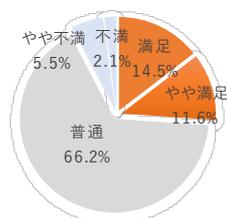
③真菌医学研究センター前



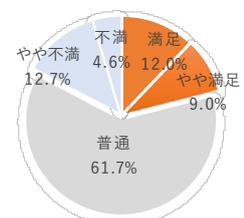
④医学部本館北側

■ 検討の方向

- ・分別の徹底

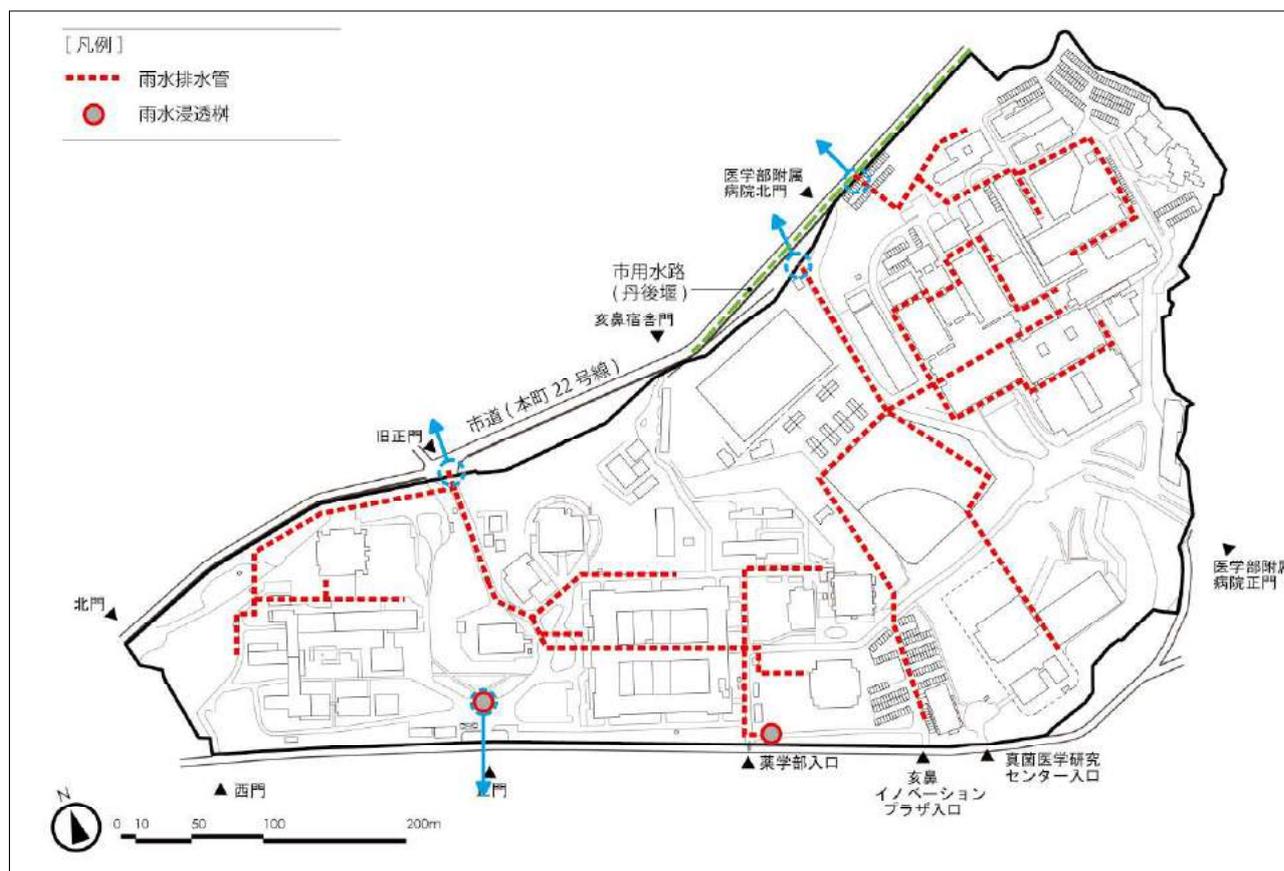


(図) ゴミ置き場の場所の数について



(図) 粗大ゴミ置き場について

4-8 都市型豪雨



雨水排水管・浸透樹マップ

施設環境部データより
平成28年11月

■CMP2012 からの変化

■検討の方向

- ・ 水はけの悪い箇所の把握と改善
- ・ 市用水路への雨水流出抑制
- ・ 急傾斜地の保全

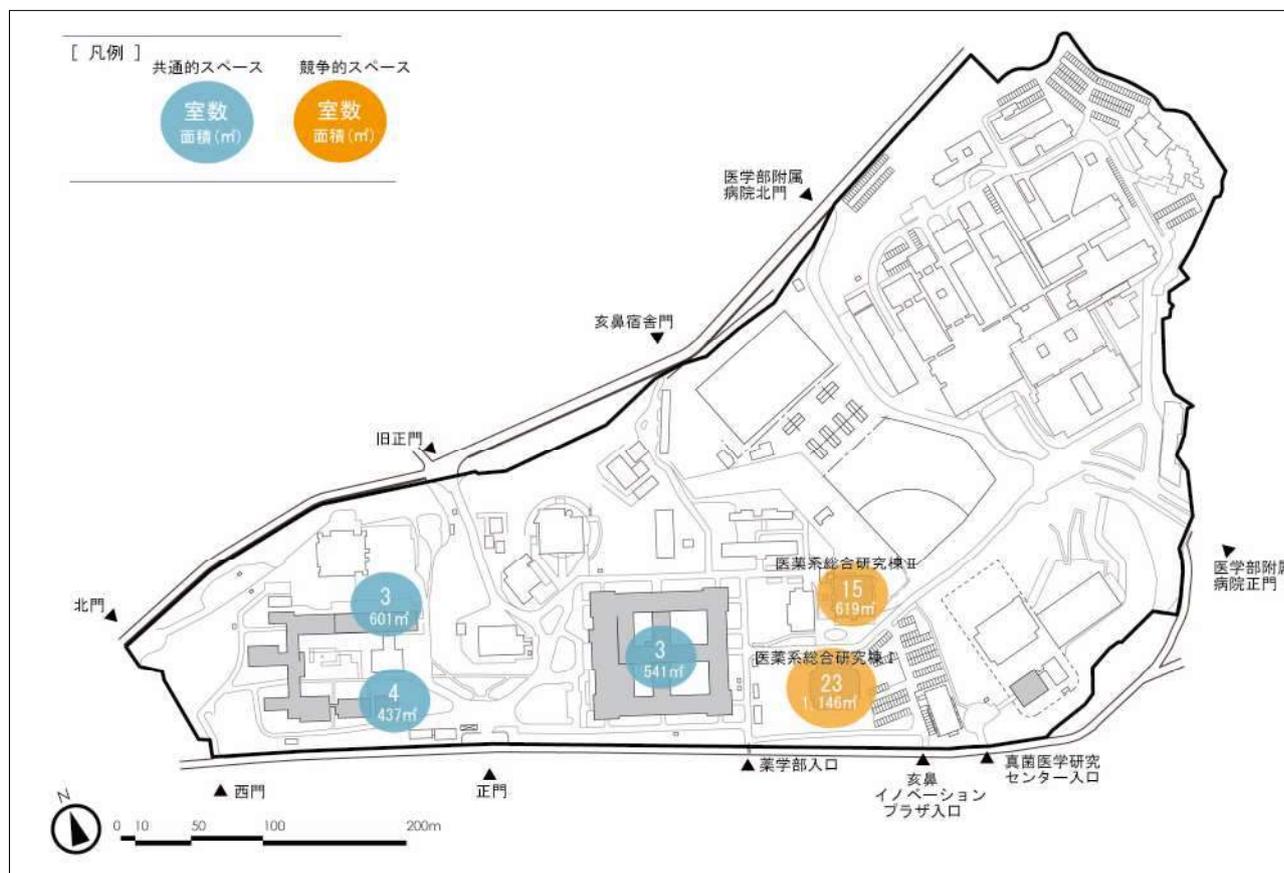
■現状・課題

亥鼻キャンパスは、敷地に高低差があり、周辺地域への流れ出しのおそれがある。

- ・ 豪雨時における市用水路（丹後堰）への雨水流出
- ・ 地震や集中豪雨時に崩落・崩壊の恐れのある箇所（連絡道路の崖部分）の確認が必要
- ・ 市道（本町22号線）の急傾斜部分の点検と管理

その他

5-1 全学共同利用スペース



全学共同利用スペース

施設環境部データより
平成 28 年 11 月

■ CMP2012 からの変化

■ 検討の方向

■ 現状・課題

全学で共同利用するスペースは、合計
1,579m²となっている。

その他

5-2 宿舎



宿舎

施設環境部データより
平成 28 年 11 月

■ CMP2012 からの変化

亥鼻宿舎が平成 28 年度で使用を終了する。

■ 検討の方向

・ 自己保有や民間施設借り上げなどを含めた住居系施設の整備のあり方

■ 現状・課題

亥鼻キャンパスには、学生宿舎であるさつき寮（定員 34 名）雄翔寮（定員 60 名）がキャンパス内にあり、利用率は、

- ・ さつき寮 100%（空き部屋なし）
- ・ 雄翔寮 86.6%（空き部屋 8 部屋）

である（2016 年 12 月）。

また、教職員（看護師を含む）用宿舎も配置されている。

・ レジデントハウス（研修医宿舎）が敷地東側にある。



① さつき寮



② 看護師宿舎



③ 亥鼻宿舎（H28 で使用終了）